観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年９月２４日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･(地域ＤＭＯ)	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人八幡平市観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 岩手県八幡平市	
所在地	岩手県八幡平市	
設立時期	平成 18 年４月１日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	７人【常勤７人（正職員７人・出向等０人）、非常勤０人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 田村　正彦 （出身組織名） 一般社団法人 八幡平市観光協会	西根町議会議員（２期）、岩手県議会議員（３期）を経て、八幡平市長（４期）を務め、2021 年から（一社）八幡平市観光協会会長に就任、八幡平市長に在任期間中は、インバウンドをはじめとした観光客の受入れ環境の整備をはじめ、様々な成果を挙げている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 髙橋　美里「専従」 （出身組織名） 一般社団法人 八幡平市観光協会	令和５年３月東海大学大学院文学研究科観光学専攻修士課程修了。卒業後、松川温泉峡雲荘に就職し、宿泊現場に従事。令和６年４月一般社団法人八幡平市観光協会に就職、観光一般を学ぶとともに観光事業実務に従事。 令和７年３月一般社団法人八幡平市観光協会が登録ＤＭＯとなったことから、従来業務従事者とは別枠としてＤＭＯ専従職員として活躍が期待できる。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 中軽米　昭彦「専従」 （出身組織名） 一般社団法人 八幡平市観光協会	八幡平市役所で３９年間（再任用１年含む）勤務。行政との連携を強化し、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。

様式１

各部門の責任者 （専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	―	―
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	岩手県八幡平市産業建設部商工観光課 （観光地整備、観光統計、県等との連絡調整、財政・人的支援）	
連携する事業者名及び役割	・八幡平市商工会（商品開発・受入環境整備） ・八幡平市ホテル協議会（受入環境整備・誘客） ・八幡平市産業振興（株）（商品開発） ・（株）八幡平温泉開発（受入環境整備） ・大黒森管理協同組合（バックカントリー開発） ・岩手県北自動車（株）及び（株）みちのりトラベル東北 （二次交通、ツアー商品造成・販売） ・IGRいわて銀河鉄道（株）（ツアー商品造成・販売） ・JR東日本びゅうツーリズム＆セールス株式会社 （ツアー造成、販売、情報発信） ・クラブツーリズム（株）（ツアー造成、販売） ・株式会社八幡平ＤＭＣ（事業連携、情報共有）	
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①② ①観光協会の意思決定に関与する理事会の設置 理事には、宿泊事業者、商工会、交通事業者、ガイド組織、地域の観光資源の関係者、総勢 15 名が参画し、地域一体となった観光地域づくりの戦略形成に取り組んでいる。 ②観光資源の関係者、宿泊事業者、交通事業者、金融、大学が参画し、市、観光協会、商工会が事務局を務める協議会を設置している。 1 一般社団法人八幡平市観光協会 2 八幡平市商工会 3 八幡平市ホテル協議会 4 安比高原ペンションヴィレッジ会 5 安比民宿組合 6 八幡平スポーツ誘致委員会 7 岩手山・八幡平・安比高原５０ｋｍトレイル協議会 8 安比高原スキー場 9 東北リゾートサービス株式会社 10 大黒森管理協同組合 11 岩手県北自動車株式会社 12 東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社 13 西根観光タクシー株式会社 14 株式会社麹屋もとみや 15 岩手県立大学 16 株式会社岩手銀行平舘支店 17 株式会社八幡平ＤＭＣ 18 八幡平市 オブザーバー	

様式１

	19 岩手県商工労働観光部観光・プロモーション室 20 盛岡広域振興局経営企画部産業振興室
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	八幡平市が主催する八幡平市観光振興審議会は、市内の主たる観光、商工事業者の代表等により構成されており、観光関係者や学識経験者など事業者・団体を代表する者により構成されている。当審議会は八幡平市観光振興計画の諮問機関を担っており、市内の観光関係者、地域事業者が企画立案した観光振興計画を審議、承認する。 また、2020 年３月新たに組成した八幡平市観光協議会（会長：八幡平市長）は、市観光振興計画の実施に向けて、企画立案し、その内容に関する関係者間の合意形成や、それぞれのテーマにそった事業を関係者が協働で実践する仕組みであり、目的に応じた活発な活動が展開されている。 また、第４期八幡平市観光振興計画では、関係者と定期的なワークショップや意見交換等を実施しながら企画立案し、市観光協議会で協議するなど、観光関係者を巻き込みながら実践的な観光地域づくりを実施し、令和４年に施行された。 活動紹介、活動報告として協会だより及びＨＰを通じて情報発信と意識啓発を行っており、会員の訪問によるヒアリングを行い、課題や要望などの吸い上げ、意見交換などを行っている。
法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】** 事業：情報発信・プロモーション 実施概要： 【令和６年度】 ① 観光印刷物の再版 八幡平ガイドマップ 25,000 部 八幡平市着地型観光ガイドブック 15,000 部 いわて八幡平ドライブマップ 40,000 部 岩手山・八幡平・安比高原 50km トレイルガイド 10,000 部 八幡平エリアマップ 3,000 部 八幡平温泉郷マップ 3,000 部 焼走り熔岩流　20,000 部 不動の滝 10,000 部 八幡平ガイドマップダイジェスト版データ（英語・繁体字）新規 評価：八幡平市の観光について広く広報できた。 ② 電子媒体、紙媒体等を利用した広告宣伝 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等媒体掲載 15 件 パブリシティ有効活用 13 件 情報提供（web サイト、情報サイト）４件 評価：複数媒体に広く情報発信できた。 ③ ホームページの運用、情報発信 総アクセス数 199,877 件 評価：ホームページに工夫を凝らし多くのアクセスがあった。 ④ 外国人観光客のプロモーション、商談会 外国人誘客については、台湾、韓国等の旅行会社の来訪が復活し、関連機関と連携し商談会や意見交換会などに参加し、今後の誘客事業展開に向けた準備を進めた。 ⑤ テレビ、雑誌を活用した情報発信 ②に包括

		⑥観光キャンペーンの推進 実施件数７件 評価：関係機関で行う誘客キャンペーン等に参加した。 ⑦十和田八幡平国立公園の誘客対策 首都圏主要駅へポスターの年２回掲示、山雑誌への掲載及びウエブ広告 評価：首都圏主要駅へのポスター掲出により八幡平市をＰＲできた。
	受入環境の整備	【令和６年度】 ①観光案内、宿泊施設案内の実施 観光案内数 13,466 件、来場者数 86,783 人 評価：多くの観光案内、来場者を迎え、八幡平のＰＲに寄与した。 ②着地型滞在商品の造成 ６件 評価：各種事業を開催し、八幡平の魅力を発信できた。 ③教育旅行商品の造成 セミナー等参加２件 評価：岩手県教育旅行誘致宣伝部会と連携し、教育旅行誘致に努めた。 ④自然散策バスの運行 春号乗車 2,538 名、ガイド案内数 604 名 夏・秋号 6,300 名、ガイド案内数 1,221 名 評価：多くの観光客に八幡平を知ってもらえた。 ⑤自然散策ガイドの養成 ５ 名（散策ガイドの会に入会し活動開始） 評価：毎年着実にガイドを増やすことができる。 ⑥観光施設の運営管理 ４施設 評価：観光関連施設を良好に管理することができた。 ⑦観光案内板等の維持管理 市内全域 評価：観光案内版を良好に管理し、観光客の利便向上に努めた。
	観光資源の磨き上げ	【令和６年度】 ①各種誘客イベントの運営 実施６件 評価：イベント開催により多くの観光客を誘致できた。

【定量的な評価】

１．情報発信・プロモーション

・外国人観光客のプロモーション、商談会として、八幡平市のターゲット国である台湾、タイ、オーストラリアでの地元旅行者との商談会や情報発信を行った。

２．受入環境の整備

・観光案内、宿泊施設案内を 13,466 件、松尾八幡平ビジターセンター来場者数 86,783 人と多くの観光案内、来場者を迎え、八幡平のＰＲに寄与した。

・オーバーツーリズム解消に向けた取組みへの協力を実施した。

３．観光資源の磨き上げ

項目／年度	HP アクセス数（回）	ビジターセンター入館者数（人）	八幡平レストハウス利用者数（人）
平成 30 年度	255,184	111,819	60,946
令和元年度	251,055	96,792	68,341
令和２年度	306,622	92,231	17,619
令和３年度	329,057	77,416	17,701
令和４年度	301,418	91,155	47,660
令和５年度	242,846	78,588	57,778
令和６年度	199,877	86,783	62,771

４．観光入込客数

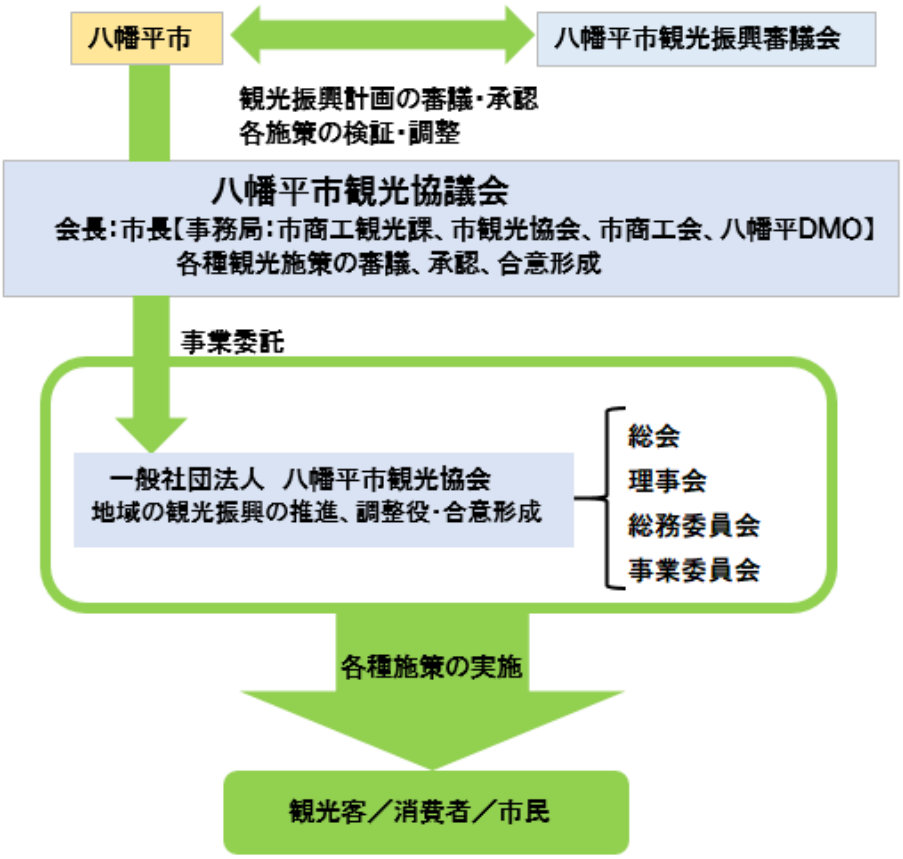
・令和６年度の観光入込客数は、令和５年度と比較すると 14,237 人増加した。閉鎖や休業した施設の影響はあるものの、コロナ前の数値に近づいている。

・延べ宿泊客数は、令和５年度から 13,216 人の減少で、特に７月・９月の低

下が大きく影響している。

年度	宿泊者数	外国人観光客数
30 年度	533,295	81,366
1 年度	514,212	129,476
2 年度	286,834	282
3 年度	340,158	108
4 年度	375,448	12,663
5 年度	365,716	58,951
6 年度	352,500	81,744

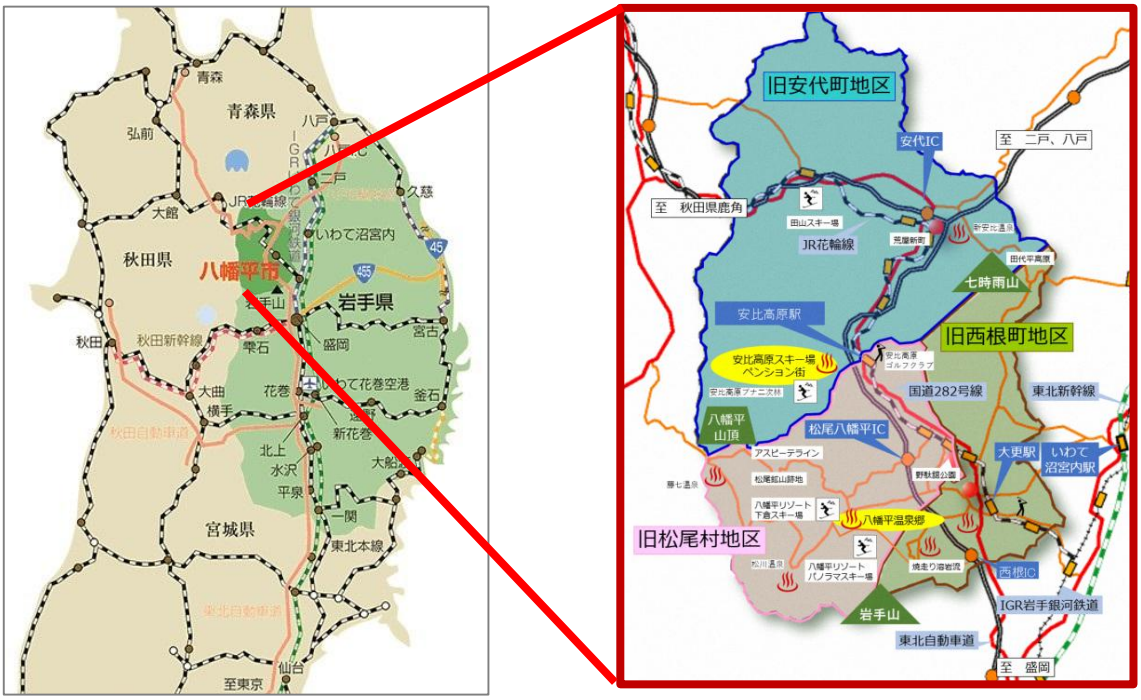
様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** 八幡平市産業建設部商工観光課と密接に連携し、市からの財源を背景とした予算措置をもとに、観光振興事業の実行を担う。 また、一般社団法人八幡平市観光協会が母体となり、行政、宿泊業者、ガイド等組織のみならず、交通事業者、金融業者、大学など多様な関係者が参画するなど産・官・学・金が密接に連携した八幡平市観光協議会を設置し、地域内での合意形成を経て、課題意識を持ちながら事業を実施している。 **【実施体制図】** 

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

本市は、県都盛岡市の北西約 30 キロメートルに位置し、東は二戸市・一戸町・岩手町と、南は盛岡市・滝沢市・雫石町、西は秋田県仙北市・鹿角市と、北は青森県田子町と、それぞれ接しており、秋田県や青森県を含めた北東北３県のほぼ中心に位置しています。

古くから、秋田県や青森県へ通じる鹿角街道が縦貫し、現在では東北自動車道・八戸自動車道と国道 282 号、さらには JR 花輪線が縦貫しており、基礎的な交通基盤が整った地域です。

本市の南端には、岩手県内最高峰の秀峰岩手山（2,038 メートル）がそびえ、西部地域は、八幡平（1,613 メートル）をはじめとする奥羽山脈の山々が南北に連なり、中央部は前森山、七時雨山、田代山等の山々が横断しています。本市は、東西約 25 キロメートル、南北約 45 キロメートルで広さは 862.3 平方キロメートルと岩手県の総面積の約６パーセントを占めています。

【観光客の実態等】

単位：人

	観光入込客数	延べ宿泊者数	外国人観光客数
平成 29 年	1,813,641	503,618	71,166
平成 30 年	1,943,615	533,295	81,366
令和元年	1,879,415	514,212	129,476
令和２年	1,297,030	286,834	282
令和３年	1,520,722	340,158	108
令和４年	1,511,778	375,448	12,663
令和５年	1,635,370	365,716	58,951
令和６年	1,549,607	352,500	81,744

令和元年（2019 年）12 月に海外で初めて確認された、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したことにより、観光を取り巻く環境が一変し、本市においても、令和元年度（2019 年度）の訪日外国人旅行者数は約 13 万人から令和３年度（2021 年度）の約 100 人まで減少し、壊滅的な打撃を受けま

した。国内旅行においても、感染症の流行に伴う旅行のキャンセルや外出自粛の影響により、観光需要は大幅に落ち込み、観光業は大きな転換期を迎えることになりました。
　そうした中、観光地においても密の回避や非接触化に対する旅行者のニーズが高まっており、デジタル技術を活用した新たなサービスの提供による、感染拡大防止と社会経済活動の回復を両立していくための取組みが推進されています。
　本市としても、こうした方向性を確実に捉え、豊かな自然、食、文化、歴史等の観光の魅力を国内外に発信し「選ばれる観光地」になることで、地域経済の好循環が生まれ、雇用機会の増大、交流人口の拡大、消費の拡大に繋がることを目指しています。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

（１）自然的観光資源

本市には、十和田八幡平国立公園八幡平地域の二つの日本百名山「岩手山」そして「八幡平」、国指定特別天然記念物「焼走り熔岩流」、新日本百名山に選ばれた「七時雨山」、秘湯「松川温泉」、日本名水百選「金沢清水」、日本の滝百選「不動の滝」等の数々の名勝、観光資源が存在します。火山の集積である八幡平では、種類豊富な高山植物や秋の紅葉が観光客を魅了しています。

●岩手山焼走り熔岩流	●智恵の滝
●十和田八幡平国立公園	●七時雨山
●八幡平ドラゴンアイ	●田代平
●八幡平アスピーテライン	●不動の滝
●樹海ライン	●横間の水芭蕉群落
●松川渓谷	●七滝の氷瀑
●松川温泉	●御在所沼
●金沢清水	

（２）歴史的・文化的観光資源

縄文時代のストーンサークル「釜石環状列石」や、古くから牛馬放牧の証が残る「安比高原」、安比川流域に伝わる漆文化、江戸時代の物流を支えた鹿角街道、麹や酒造の発酵食品等、本市の歴史を知る上で欠かせない遺産や文化は、今もなお暮らしの中に息づいています。

●安比高原（ブナ二次林）	●八幡平市指定文化財（白坂の大鏡　等）
●田頭館山公園	●史跡（一里塚、石碑、窯跡　等）
●釜石環状列石	●無形文化財
●野駄舘公園	（平笠裸参り、山伏神楽、横間虫追い祭等）
●鹿角街道と一里塚	●歌碑・詩碑
●県指定文化財	（江間章子詩碑、石川啄木歌碑、宮沢賢治
（木造地蔵菩薩立像や南部絵暦等）	詩碑等）

（３）主要な観光スポット

【遊ぶ・見る】

●岩手山焼走り国際交流村
●長者屋敷清水
●桜松公園（不動の滝）
●岩手県県民の森
●分水嶺公園
●妻の神オートキャンプ場
●県営松川キャンプ場
●3S VILLAGE 八幡平

【体験する】

●八幡平地熱蒸気染色　工房夢蒸染
●安比高原遊々の森
（ブナ二次林の散策）
●安代そば道場
●荒屋新町商店街
（郷土料理、クラフト）
●イーハトーヴォ安比自然学校
●サイクリングやアウトドア等体験メニューを持つペンション

【学ぶ】

●松尾鉱山資料館
●八幡平市博物館
●西根歴史民俗資料館
●松尾八幡平ビジターセンター
●森林ふれあい学習館
フォレストＩ（あい）
●イーハトーブ火山局
●松川地熱発電所
●安比塗漆器工房
●岩手山銀河ステーション天文台

【癒される】

●岩手山焼走り国際交流村
焼走りの湯
●いこいの村岩手温泉ホテル
●おらほの温泉
●藤七温泉
●八幡平温泉郷
●八幡平温泉館森乃湯
●なかやま荘温泉館
●松川温泉
●新安比温泉
●七時雨憩の湯

【スポーツをする】

●安比高原リゾート
●八幡平リゾート
パノラマスキー場・下倉スキー場
●田山スポーツゾーン
●安比高原ＡＳＰＡサッカー場
●南部富士カントリークラブ
●安比高原ゴルフクラブ
●七時雨パラグライダースクール
●八幡平市ラグビー場

【買い物をする】

●道の駅にしね	●松っちゃん市場
	●ふうせつ花(ざる豆腐と生ゆば)
●八幡平山頂レストハウス	●麹屋もとみや～SHIMONO528～
●松尾八幡平物産館「あすぴーて」	●安比清流山葵園
●ノレグレット（アイスクリーム）	

（４）主要な特産品・名産品

【食品】

●八幡平サーモン	●八幡平山葡萄商品
●八幡平マッシュルーム	●安比まいたけ
●八幡平牛	●安比清流山葵
●杜仲茶ポーク	●日本酒　わしの尾
●西根ほうれん草	●ドラゴンアイオーガニックビール
●ちぢみ小松菜	

【特産品・工芸品】

●安代りんどう	●地熱染め	●安比塗

（５）主要なイベント

開催時期	イベント名
４月 15 日～６月 20 日	八幡平スプリングフェスティバル
４月 15 日	八幡平アスピーテライン開通式
４月 26 日	八幡平樹海ライン開通式
５月３日	不動の滝まつり
５月 25 日	七時雨山山開き
６月１日	八幡平山開き
６月第１日曜	七時雨マウンテントレイルフェス
６月 15 日	残雪の裏岩手連峰開山祭
７月１日	岩手山山開き
８月 15 日	八幡平ふるさと花火まつり
８月下旬	八幡平ヒルクライム
８月最終土・日曜	出光イーハトーブトライアル大会 安比高原会場
９月上旬	あっぴリレーマラソン
10 月の３連休	八幡平山賊まつり
上記の次の土・日曜	八幡平紅葉まつり

様式１

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

施設数

	ホテル	旅館	ペンション	民宿	キャンプ場	合計
西根・焼走・松尾	2	1			3	6
八幡平温泉郷	4		13	2	5	23
松川・藤七温泉		4	1		1	6
安比高原	4		18			22
細野・赤坂田		1	1	19	1	22
安代・七時雨・田山	1			3		4
総計	11	6	33	24	10	84

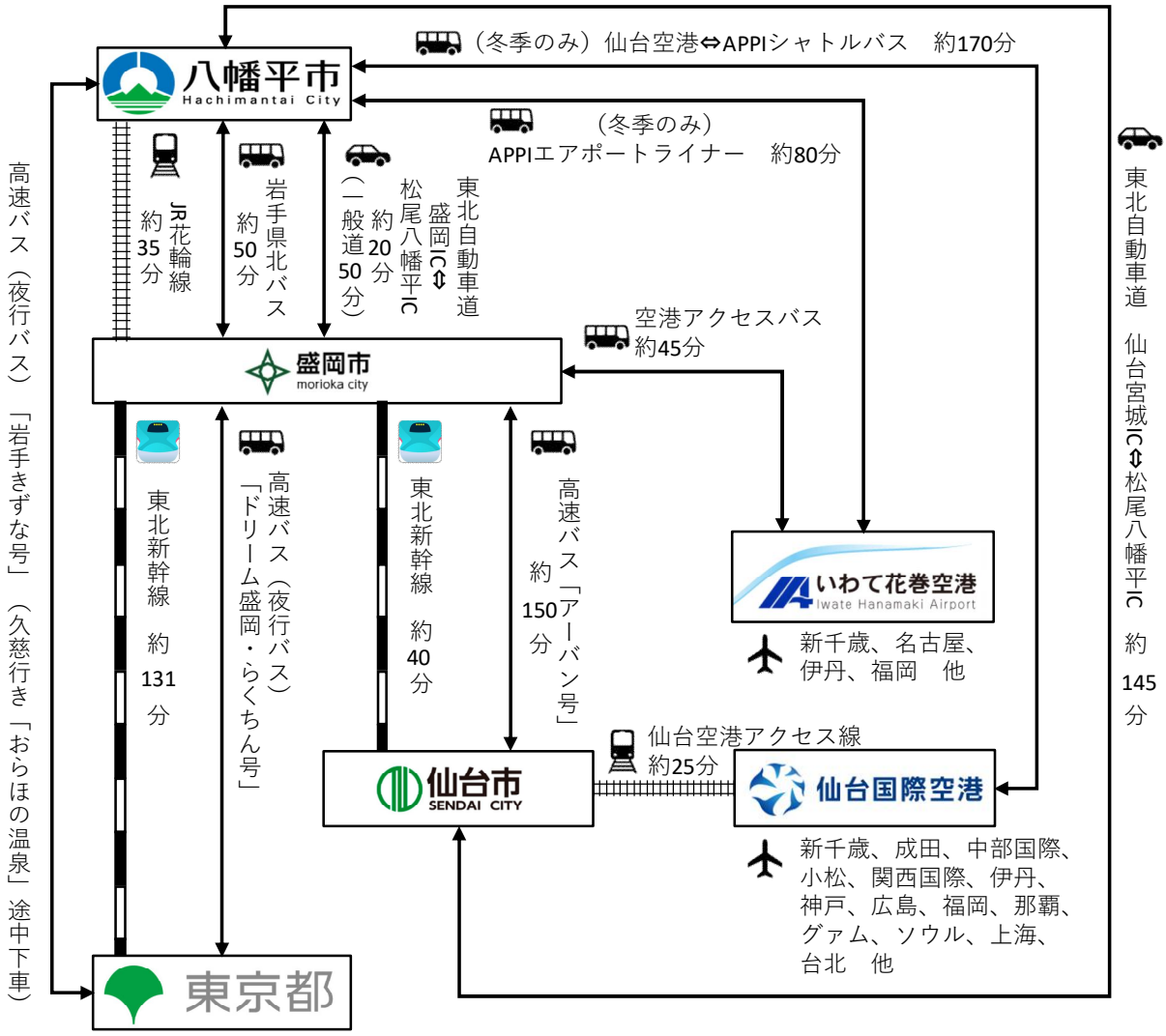
宿泊可能数（人）

	ホテル	旅館	ペンション	民宿	キャンプ場	合計
西根・焼走・松尾	170	24			830	830
八幡平温泉郷	609		269	25	470	1,373
松川・藤七温泉		292	12		140	444
安比高原	5,166		462			5,628
細野・赤坂田		40	44	868	25	977
安代・七時雨・田山	227			100		327
総計	6,172	356	787	993	1,465	9,773

宿泊可能数（室）

	ホテル	旅館	ペンション	民宿	キャンプ場	合計
西根・焼走・松尾	50	6			244	300
八幡平温泉郷	185		98	10	129	422
松川・藤七温泉		107	6		70	183
安比高原	1,075		159			1,234
細野・赤坂田		19	10	222	10	261
安代・七時雨・田山	56			27		83
総計	1,366	132	273	259	453	2,483

【利便性：区域までの交通、域内交通】



＜区域までの交通＞

1. 盛岡から
   鉄道「JR 花輪線」1 日8往復　盛岡→大更まで 20 分～30 分、盛岡→安比高原まで約 60 分
   路線バス「岩手県北バス」1 日約 20 往復、盛岡駅→大更駅まで約 50 分,八幡平ﾘｿﾞｰﾄﾎﾃﾙまで約 100 分、松川温泉まで約 120 分など
   高速バス「みちのく号（盛岡→花輪・大館）」,を途中下車、盛岡→安代約 50 分
   自動車　東北自動車道　盛岡 I.C.→松尾八幡平 I.C.　約 20 分
   その他、夏季シーズンに八幡平自然散策バス、宿泊者専用無料シャトルバス
   冬季シーズン（スキーシーズン）に安比高原へ結ぶ路線バスなどあり
2. 東京から　（東京→盛岡、盛岡以降は上記「1.盛岡駅から」ご参照）
   鉄道「東北新幹線」東京→盛岡、最速 131 分
   高速バス（夜行バス）「ドリーム盛岡・らくちん号　他」東京→盛岡
   高速バス（夜行バス）「岩手きずな号（東京→久慈）」を途中、おらほの温泉で下車
   自動車　浦和料金所→松尾八幡平 I.C.　約 6 時間～8 時間
3. 仙台から　（仙台→盛岡　、盛岡以降は上記「1.盛岡駅から」ご参照）
   鉄道「東北新幹線」仙台→盛岡、最速 40 分
   高速バス「アーバン号」1 日約 20 往復、仙台→盛岡まで約 150 分
   高速バス「大館仙台線（仙台→大館・鹿角）」を途中下車、仙台→安代まで約 240 分

自動車　東北自動車道　仙台宮城 I.C.→松尾八幡平 I.C.　約 135 分

4. いわて花巻空港から
路線バス「空港アクセスバス」 1 日 4 往復　空港→盛岡まで約 45 分
（盛岡以降は上記「1.盛岡駅から」ご参照）
（冬季のみ）高速バス「APPI エアポートライナー」1 日 1 往復、空港→安比高原まで約 80 分
自動車　釜石道　東北自動車道　花巻空港 I.C.→松尾八幡平 I.C.約 50 分

5. 仙台国際空港から
鉄道「仙台空港アクセス線」空港→仙台駅まで約 25 分「東北新幹線」仙台→盛岡最速 39 分
（盛岡以降は上記「1.盛岡駅から」ご参照）
（冬季のみ）高速バス「仙台空港→APPI シャトルバス」1 日 1 往復、空港→安比高原まで約 170 分
自動車　仙台東部道路　東北自動車道　名取 I.C.→松尾八幡平 I.C.約 170 分

6. その他
八戸 I.C.→安代 I.C.　約 70 分
青森 I.C.→安代 I.C.　約 100 分 （青森空港→安代 I.C.　約 90 分）
大館能代空港→安代 I.C.　約 70 分 （青森空港→安代 I.C.　約 90 分）

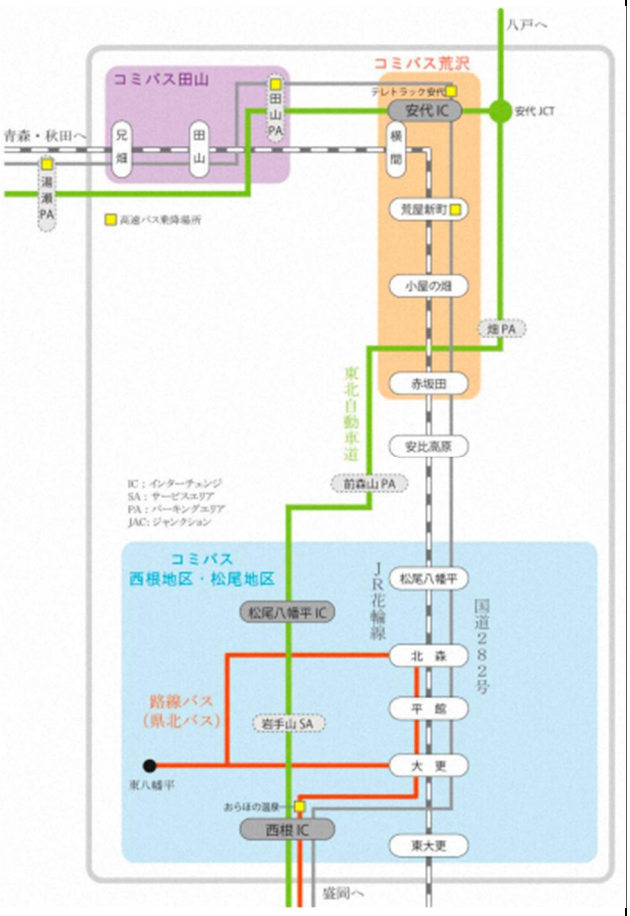
＜域内交通＞

1. 鉄道・・・JR 花輪線が市内に 12 駅あり、安代地区と西根・松尾地区を結ぶ他、安比高原へのアクセスにも利用されている。市外へは盛岡と秋田県大館を結んでいる。1 日 8 往復。

2. 路線バス・・・盛岡バスセンター、盛岡駅から大更駅を軸に田頭を経由して松尾方面へ向かう路線と病院やスーパー等の主要な施設が立ち並ぶ国道 282 号を沿って平館駅方向に行く2つの方向に伸びている。1 日約 20 往復。

3. コミュニティバス・・・西根地区（4 路線）、松尾地区（2 路線）、安代地区（9 路線）各、1 日 1～2 往復程度を運行している。

4. タクシー・・・市内には3つのタクシー事業者があり、ジャンボタクシー4 台、中型 2 台、小型 20 台ほどが保有されている。



【外国人観光客への対応】

・市内宿泊施設、観光施設の Ｗｉ－Ｆｉ 環境整備はほぼ完了している。
・観光パンフレット、多言語化に対応したホームページの運用。
・国際定期便、チャーター便の空港到着時に歓迎のお出迎えを実施。
・海外旅行エージェントと連携した現地案内。

様式１

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	オープンデータを活用（観光庁「旅行・観光消費動向調査」「訪日外国人消費動向調査」岩手県「いわての観光統計」(公財)日本交通公社「JTBF 旅行者調査」REASAS、観光予報プラットフォームの活用
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	八幡平市が実施。市内の宿泊施設や観光施設に入込数、宿泊者数（延人数及び実人数。日本人は県内、県外別、外国人は居住国別）教育旅行数（学校、県、生徒数、泊数）のデータを収集。各宿宿泊施設はフォームを記入し、FAX、メールで提出。回収率は市内宿泊施設の約 50%。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	八幡平市の委託事業。市内約 80 の宿泊施設とスキー場に QR コードによるアンケート実施。毎月抽選でギフトカードが当たる仕組みにしている。70 カ所から回答が少なくとも一つ以上あり、2022 年は 1600 サンプルの回答を得た。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	八幡平市の委託事業。市内約 80 の宿泊施設とスキー場に QR コードによるアンケート実施。毎月抽選でギフトカードが当たる仕組みにしている。70 カ所から回答が少なくとも一つ以上あり、2022 年は 1600 サンプルの回答を得た。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google アナリティクスを活用。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	八幡平市の委託事業で事業者に向けて経営や支援ニーズの調査をアンケート形式で実施。市民に向けて市内観光に対する認識やシビックプライドなどの調査も今春から実施予定。

様式１

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

八幡平市の観光振興については、平成 29（2017）年度に 令和３（2021）年度までの５カ年を目標とする「第３期八幡平市観光振興計画」を策定し、「日本の美しい四季と暮らし ナショナルパーク八幡平」を将来ビジョンに掲げ、８つのアクションプランを重点に置き、観光振興における取組みを推進してきた。 平成 30（2018）年５月には、観光旅行者の価値観やニーズの多様化等の変化に的確に対応し、魅力ある観光地域づくりの推進主体である、株式会社八幡平ＤＭＯを観光地域づくり法人として設立し、インバウンド施策への取組を強化してきた。

また、平成 31（2019）年２月には、一般社団法人八幡平市観光協会が十和田八幡平国立公園八幡平地域内の鏡沼の雪解けの現象を世界に誇れる新たな観光コンテンツとして、「八幡平ドラゴンアイ」を商標登録し、国内外に向けた情報発信により、現在は国内外から多くの観光客が訪れる人気スポットとなった。 しかし、令和元（2019）年 12 月に海外で初めて確認された、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したことにより、観光を取り巻く環境が一変し、本市においても、令和元年度（2019 年度）の訪日外国人旅行者数は約 13 万人から令和３（2021）年度の約 100 人まで減少し、壊滅的な打撃を受けた。国内旅行においても、感染症の流行に伴う旅行のキャンセルや外出自粛の影響により、観光需要は大幅に落ち込み、観光業は大きな転換期を迎えることとなった。

そうした中、観光地においても密の回避や非接触化に対する旅行者のニーズが高まっており、デジタル技術を活用した新たなサービスの提供による、感染拡大防止と社会経済活動の回復を両立していくための取組みが推進されている。令和４（2022）年度のインバウンド再開については、空路がない東北地方は復活が遅かったものの、八幡平市では、スノーシーズンから徐々に復活の兆しが現れている。 本市としても、こうした方向性を確実に捉え、豊かな自然、食、文化、歴史等の観光の魅力を国内外に発信し「選ばれる観光地」になることで、地域経済の好循環が生まれ、雇用機会の増大、交流人口の拡大、消費の拡大に繋がることを目指している。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ 北東北に引き継がれてきた独自の文化風習 ・北東北の食材と食文化（雑穀、蕎麦、日本酒、発酵等） ・木地を作り、漆も採取できる漆器文化、古代から伝わる馬事文化 ・環境や自然と共生した暮らしを目指して、馬と協働し、馬を活用した新しい暮らしに挑戦する若者 ・豊富な観光資源…自然（雪・桜・紅葉）、スキー場、（バックカントリーが楽しめる） ・豊富で効能豊かな温泉 ・宿泊施設が多い（県内１位）…国際会議開催可能施設 ・グローバルブランドの宿泊施設の開業（ANA インターコンチネンタル安比高原） ・イギリスの名門校、ハロウインターナショナルスクール安比ジャパンの開校による、国内およびアジア富裕層からの注目度の高さ ・若手事業者（後継者クラス）の活気がある	弱み（Weaknesses） ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？ ・ナイトタイム ・低い認知度 ・二次交通 ・外国人向け案内所、対応ガイドが少ない。現地で当日にアクティビティが手配しにくい ・外国人向け観光情報が整備されていない（商店街・通りの名前がない） ・カード決済可能な店が少ない ・八幡平ブランドが確立されていない ・特産品・販売店の少なさ ・海外商品がない ・宿泊者への求職者減少 ・体験メニューが少ない ・宿泊施設の人手不足、事業承継の問題 ・IT 化対応が遅れている

様式１

	・安比高原の国際的な露出の高さ（CNN：10 top ski resorts to visit this winter （2017)、World Ski Awards：Japan's Best Ski Resort 2017 nominees, Yahoo International：8 best ski resorts in Asia（2013)、National Geographic ： the best palces to take in 2020(2019) ） ・イーハトーヴォ安比自然学校の農村体験プログラム ・ファミリーフレンドリーなサービスの安比高原と日本一の緩斜面で安心の八幡平リゾートパノラマスキー場	
外部環境	機会（Opportunity） ・自地域にとって追い風となる要素は何か？ ・物見遊山よりコト消費傾向で、本物志向で地元との交流や地元の人が楽しむものを重視するコミュニティベースドツーリズム ・サステナブルツーリズムへの意識の高まり ・インバウンドのゴールデンルートから地方への拡散 ・LCC（格安旅行会社）の増加 ・個人観光客が増加 ・アジア新興国の中流所得層の増加 ・市内事業者の外国人客受け入れ意識が高まりつつある ・2022 年の北京五輪に向けて急増する中国人スキーヤー	脅威（Threat） ・自地域にとって逆風となる要素は何か？ ・感染症のパンデミック ・気候変動に伴う雪不足 ・岩手山の噴火の可能性 ・東北への海外からの直行便の少なさ ・国内スキー客の減少 ・国内シニア観光客の減少 ・国内サービス事業への求職者減少 ・ネット予約者増加によるキャンセル率の増加 ・国内におけるペットを飼う人の増加 ・国内所得の減少 ・マナーの悪い外国人観光客の観光公害

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

様式１

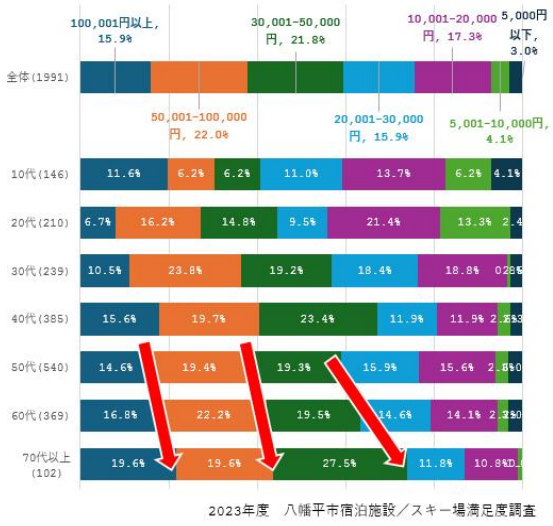
（３）ターゲット

〇ターゲット層
　国内アクティブシニア層

〇選定の理由
　八幡平市の観光客の中でも年齢層の多い 65 歳以上のシニア層は、行動的で消費意欲も高い傾向であり、旅行者買い物にも意欲的な層のため主要なターゲットとして期待できる。

〇取組方針
　十和田八幡平国立公園八幡平地域のトレッキングや四季の魅力を活かした体験を提供し、アクティブシニア層のリピート率向上を目指す。
　ナショナルパーク八幡平は、山頂付近の勾配が非常に緩やかで、誰もがアクセスしやすい日本百名山です。これを、誰もが到達できる、ユニバーサルデザインの百名山として捉え、老若男女、年齢や身体的な理由で登山を諦めていた人にも、登山の魅力を提供できる、ユニバーサルツーリズム（すべての人が楽しめるよう創られた旅行）を推進します。

年代別、八幡平での消費額　（宿泊費）



2023年度　八幡平市宿泊施設／スキー場満足度調査

年代別、八幡平での消費額　（食費）

2023年度　八幡平市宿泊施設／スキー場満足度調査

年代別、八幡平での消費額　（交通費）

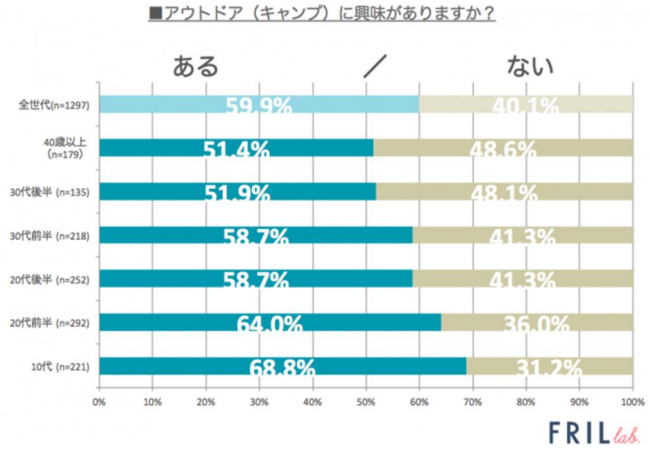
八幡平を訪れた観光客の消費額を見ると、宿泊費や食費については家族連れで人数の多い 40 代が高いものの、基本的には高齢になるほど消費額が高い傾向である。

様式１

○ターゲット層
　国内若年アウトドア層

○選定の理由
　通年通して楽しめる八幡平市は、夏はトレッキングやキャンプ、冬はスキーやスノーボードなど、アウトドアを満喫する若年層を取り込めるポテンシャルが高い。

○取組方針
　登山初心者でも気軽に登ることができる八幡平や、各レベルのスキーヤー・スノーボーダーを魅了するスキーリゾートと連携した取組みを実施することで、新たな若年層の獲得を目指してアプローチを実行する。
　十和田八幡平国立公園及び周辺エリアにおいては、高単価な客層に対して「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の３要素のうち２つ以上で構成される「アドベンチャーツーリズム」の付加価値の高い観光商品の造成と営業強化を実施します。



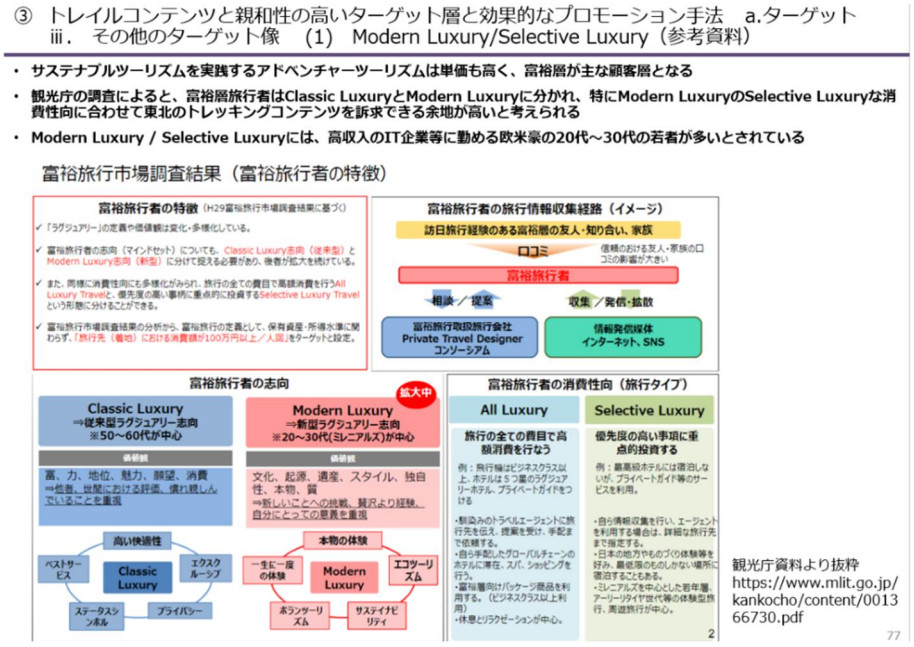
　フリマアプリ「ラクマ」が 2016 年に実施した調査ではアウトドアへの興味は実は若年層ほど多くあることがわかった。ファッションビルの SHIBUYA109 lab.が 443 名の若者に行った調査では「モノ・コト部門」で自然豊かな場所でリラックスする写真をＳＮＳ等に投稿する”自然界隈”がトレンド入りしており若者のアウトドアの関心度の高さが注目されている。ARC’TERYX、Patagonia、THE NORTH FACE などの本格アウトドアブランドも若者のファッションアイテムとして定着している。ファッション誌 WWD が指摘するようにコロナ後に必ずしも山頂を目指さないトレイルランニングやウルトラライトハイキングのような新たな楽しみ方が生まれ、また登山アプリの浸透により 20 代～40 代の新たな登山層が生まれていることも注目される。コロナでキャンプやアウトドアに注目が集まったこともあり、若者層は以前よりも登山に関心が高くなっていると考えられる。
　また、ただ単に市場があるから狙うのではなく、現状、八幡平を訪れている客層がやや高齢者に偏っており、早年、客層の縮小は避けられず、若者層などから新たなリピーターを作り出すことは必至である。

様式１

○ターゲット層
　海外富裕層中心

○選定の理由
　旅先での体験や宿泊施設等を重視する傾向の海外からの観光客は、滞在期間の長期化や消費単価も高い傾向であり、八幡平市では海外富裕層の受入れ可能な宿泊施設が整備されている。
　また、観光庁の調査によると、富裕層でもClassic LuxuryとModern Luxuryに分かれて、特に後者ではエコツーリズムやサステナビリティへの関心も高く、地熱のエネルギーが循環して観光地を形成し、季節ごとにトレッキングやスキーなどの自然に触れるアクティビティを提供する体験コンテンツの豊富さをウリに歴史・文化や食を組み合わせた商品の提供が可能であり、八幡平市は富裕層を狙える位置にいるといえる。
　また、ハローインターナショナルスクールの存在は、自然と富裕層の滞在につながり、そうした経験をフィードバックすることで、より実際的な富裕層対応の構築が可能となるメリットがあることからターゲットと設定する。

○取組方針
　富裕層向けホテルブランドの開業や、イギリスの名門校のハロウインターナショナルスクール安比ジャパン校の開校等による、富裕層の関心の高まりが期待できるため、洗練された体験、アドベンチャーツーリズムなど高単価な商品を造成し、海外からの観光客を取り込む。
　ファミリー向けコンテンツの開発や海外ファミリー層への発信、芸術とのコラボレーションといった上質なコンテンツの開発、グリーン期のコンテンツ開発等、富裕層受入に見合う価値の創出を行います。



観光庁資料より抜粋
https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001366730.pdf

様式１

○ターゲット層 国内企業、学校
○選定の理由 　持続可能なエネルギーとして注目を集める「地熱」をキーワードに学ぶＳＤＧｓ教育旅行プログラムや、松尾鉱山の歴史と自然保護活動、現在の八幡平市の自然の豊かさを学ぶ企業研修など、学びの場として発信し、宿泊者数が減少する６月、７月、11 月に呼び込み、新たな層を獲得する。 ○取組方針 　地熱発電所による地熱資源を活用した農業や地熱蒸気を使った地熱染め、安比高原の中のまきばの野芝の再生活動等、サステナブルな取組みが行われています。 　こうした地域資源や松尾鉱山の学びを生かして、教育旅行や企業研修誘致の取組みを推進し、閑散期の集客を目指します。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	自然を未来につなぐまち Natural Resort 八幡平 （令和４年８月施行 第４期八幡平市観光振興計画） https://www.city.hachimantai.lg.jp/uploaded/attachment/20998.pdf
②コンセプトの考え方	「Natural Resort」として、「稼げるリゾート」へ 本市の豊かな自然を維持しながら、観光による経済活性化を力強く促進し、自然に恵まれた観光地を「稼げるリゾート」に変えていくことを目指す。 十和田八幡平国立公園八幡平地域の強みを生かしたブランディングや、ガイドの利用強化と高付加価値化、スノーリゾートや滞在環境の支援による観光客の満足度向上、歴史文化を活用した広域連携等、次世代の観光地に求められる「稼げる仕組みづくり」をアクションプランとして計画する。 滞在する人にも暮らす人にも心地よい、持続可能な環境を提供 本市は、色鮮やかな風景の中で、日本有数のスノーリゾートや雄大な山々でのアクティビティ、温泉等、豊かな大自然の“静と動”を体感できる観光地である。 豊富な地熱資源が持続可能な取組みに生かされ、人と地球に心地よい滞在が当たり前に提供されている。 本市の大自然に触れることで、訪れた人自身がよりよい人生や生き方に気づく新しい発見や自分なりの冒険、言い換えれば、自然のエネルギーを自分のパワーに変える旅を体験できる。四季折々の本市の美しさの中で、自分の原点に立ち戻り、次の一歩を踏み出したくなるような時間を提供する。 市民の誇りにつながる観光地域づくり 本市のさまざまな魅力は、このまちに住む人たちによって紡がれてきたものである。観光に訪れた人が本市のことを好きになり、訪れ続け、さらには住んでみたいと思うようになるためには、市民との「出会い」も欠かせないものとなる。 そのために、市民自身が本市の魅力を知り、好きになること、市民のより多くの方々にとって観光に関わるさまざまな取組みに関わるきっかけや後押しになることを意識したアクションプランを実施する。

様式１

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	令和４年９月に施行された第４期八幡平市観光振興計画については、令和３年の４月～令和４年３月までの１年間、地域の観光関連事業者の若手が中心となって、月に１～２回の頻度で計画策定会議を実施して素案を策定した。この素案を、八幡平市観光振興審議会で審議し、協議、合意形成を重ねて施行されたものである。 市内事業者を巻き込んで作成した観光振興計画には、アクションプランと実施主体が記載されており、観光事業者はもちろん、八幡平市、八幡平市観光協会それぞれが計画実現に向けたアクションを実施することとしている。 この観光施策については八幡平市観光振興審議会がレビューを行うこととなっており、計画の進捗状況と照らし合わせて、PDCA を回し、KPI の達成状況を確認することとしている。 また、年に４回程度、八幡平市長を会長とした八幡平市観光協議会を開催し、各種観光施策について協議を行う。また、八幡平市商工観光課、八幡平市観光協会、八幡平市商工会の３者がこの協議会の事務局として、施策の共有や実施状況等について共有している。
	八幡平市では、令和２年３月に地元の観光事業者とこれらの経済団体と行政が一体となって観光推進を行う組織として、八幡平市観光協議会を立ち上げた。この中で、国際競争力の高いスノーリゾート形成を、八幡平市の観光振興の中核となる事業として進めることとしている。 なお、本協議会は以下のような内容に取り組むことを目的としている。 （１） 八幡平市の観光振興に係る計画案の協議・検討に関すること。 （２） 国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業に係る事業内容の検討・実施に関すること。 （３） エコツーリズム推進法（平成 19 年法律第 105 号）の地域認定に係る検討・事業実施に関すること。 （４） 観光に係る各種組織との連携協議・事業等の役割分担を踏まえ、各種企画、実施事業に係る地域内の 合意形成に関すること。 （５） 国、県及び関係機関等が行う観光に関する事業との連携に関すること。 （６） その他必要と認められる事項 八幡平市観光協会では会報を発行し、よりリアルタイムな情報発信とするため、ホームページでも、市民向け、関連事業者向けに観光関連情報を共有している。

様式１

観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	八幡平市観光動向分析調査における満足度調査や各種のアンケート調査から観光客の評価をモニタリングし会員施設へフィードバックする。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	八幡平ＤＭＯや八幡平市観光協会のそれぞれのＨＰやパンフレット等の媒体を一元化し、情報発信の効率化を図っている。 デジタル媒体での発信強化を事業者と一体となり取組む。 八幡平ＤＭＯが取組んできた海外プロモーション（商談会・旅行博）を継続して実施する。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2021（Ｒ３）年度	2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	3,900	9,800	10,000	10,500	10,500	10,600
		(-)	(800)	(3,000)	(5,600)	(7,800)	(9,700)
	実績		8,010	9,800	12,400		
		(-)	(460)	(2,900)	(5,800)		
●延べ宿泊者数（千人）	目標	568	400	450	520	560	600
		(-)	(20)	(70)	(130)	(180)	(220)
	実績	340	375	365	353		
		(0.1)	(12)	(58)	(82)		
●来訪者満足度（7 点満点中）	目標	6.48	6.24	6.25	6.26	6.28	6.3
		(-)	(-)	(6.15)	(6.2)	(6.4)	(6.6)
	実績	-	6.11	6.13	6.04		
		(-)	(5.88)	(6.05)	(6.14)		
●リピーター率（%）	目標	83.0	83	82	81	80	80
		(-)	(-)	(55)	(57)	(58)	(60)
	実績	-	78.2	66.3	68.4		
		(-)	(36)	(25)	(18.2)		

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
令和３年度から令和４年度にかけて、八幡平市では八幡平市観光振興計画を策定した。若手の事業者のヒアリングと発案を軸に素案を作成し、八幡平市に関わる宿泊施設、観光施設、ガイド、交通事業者、金融機関、大学などで構成される八幡平市観光協議会で議論され、有識者で構成される八幡平市観光審議会で承認された計画である。
KPI についてもこの計画で改めて設定され、令和４年以降の計画値はこの計画に基づいて設定されている。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
令和３年度までは旅行消費額は一人一日当たりの消費単価で計測していたが、今後は総額を集計してKPIとした。
以下は、消費単価を計測していた時の概要である。
令和３年度１２月から稼働した宿泊施設におけるQR コードによるアンケート調査（令和３年１２月～令和４年１０月現在７０施設が協力し、１４３４サンプルを収集した。）を活用し、滞在日数と一

人一日あたりの単価を割り出し、各宿泊施設が報告する延べ宿泊者数を掛け合わせて集計する。

令和３年度より稼働したもので、従前の県が収集したデータと対象が異なるため、連続性がないがコロナを経て大きく状況が変わるため、令和４年以降を新たなスタートとしてＰＤＣＡを行うこととした。

日本人観光消費額について、令和６年度は124億円となっており、令和５年度と比較すると26億円増加した。この要因は、コロナ後の旅行需要の回復、宿泊施設等で客単価の向上及び滞在日数の増加によって消費額が伸びたと考えられる

訪日外国人観光消費額について、令和６年度は58億円となっており、令和５年度と比較すると29億円増加している。中国の本格的な回復は未だにないものの、東南アジア各国や欧米豪の観光客数の増加により平均滞在日数が増加したことが要因と考えられる。

●延べ宿泊者数

宿泊者数は八幡平市が集計している。４半期に一度、市役所が宿泊施設からデータを回収している。

回収率が53%であり、今後デジタルでの報告を可能にしたりＰＭＳやサイトコントローラーなどとの連動する仕組みを検討したり、回収率および精度の向上、またリアルタイムの分析ができるようにすることを検討している。

令和３年度は昨年度から回復しているものの、インバウンドも全く戻らない状況でコロナ前には及ばない状況である。コロナの影響で大型のチェーン系ホテルが閉鎖し、地域の客室数も大きく減った為、今後の見通しも厳しいものがあるが、安比高原の高級ホテルチェーンへのリブランドや英国名門インターナショナルスクールの開校による知名度の向上などでコロナ後の大きな回復も期待できる。

令和４年度外国人観光客入込数については、令和４年10 月からの水際対策緩和により、本市では12月頃から回復傾向となった。国籍については、コロナ前の令和元年度は台湾45%、中国37%と圧倒的に占めていたが、令和４年度は、台湾25%、中国7%、香港24%、豪州15%、タイ９%、シンガポール６%と占めており国籍の分散化傾向がみられる。インバウンド入込の目標値の達成には、中国の本格的な回復がカギを握っている。

●来訪者満足度

満足度調査についても令和３年度以降は前述のＱＲコードによる宿泊施設におけるアンケート調査で集計を行っている。70 施設以上の調査協力があり、サンプルも年間1500 件以上集まる見込みであり、精度の向上が期待できる。

コロナ禍での満足度についてはＧｏＴｏ トラベルや旅行支援などの影響もあり、通常時とは異なることを考慮しないといけないが、全国平均と比べても八幡平の結果は高く出ている。

インバウンドについては全国平均より下回る結果があり、言語対応などインバウンドの受け入れ環境整備が整うことで日本人と同様に評価される見込みがあり、今後の伸びが期待できる。

日本人、外国人の総合満足度は、前回の調査結果と比較すると低下しているが、同時期の全国平均は日本人で5.98 点と決して低い数値ではない。

満足度の詳細は、自然や宿泊施設の評価が高いものの、アクセス・交通利便性、飲食店、買い物などのインフラ面での満足度が低い結果となっている.

●リピーター率

リピーター率について、令和３年度より以前は、県のデータを利用していたが、前述の宿泊施設におけるＱＲコードによるアンケート調査で集計し、日本人も対象となった。集計システムの変更が伴ったとはいえ、令和３年度のリピーター率が８割を超えてかなり高くなっているのは、ＧｏＴｏ トラベルや県民割に伴い、県内比率が大きく高まっている影響が考えられる。コロナ後は県外の未だ八幡平を訪れたことがない新規客が増えていく見込みである。

日本人リピーター率は、令和４年度実績値と令和３年調査結果を比較すると4.8%低下しているが、令和４年度は全国を対象とした宿泊割の効果などにより、初めて八幡平市を訪れる観光客の割合が増加したことでリピーター率が低下したと考えられる。

外国人リピーター率は、インバウンドの再開直後ということで、すぐに動ける新規性を好む客層の動きが多い傾向だったことにより、初めての訪問が多かったと考えられる。

（２）その他の目標

指標項目		2021（Ｒ３）年度	2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度
●再訪意向（7 点満点中）	目標	－	6.54	6.55	6.56	6.58	6.6
		(5.82)	(－)	(5.9)	(6.1)	(6.3)	(6.6)
	実績	－	6.37	6.25	6.04		
		(－)	(5.94)	(6.14)	(6.14)		
●観光資源認知度（市民）（%）	目標	－	－	87.7	87.7	－	－
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	－	－	87.7	99.3		
		(－)	(－)	(－)	(－)		
●教育旅行者数（人）	目標	－	15,000	18,000	22,000	26,000	28,000
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	－	24,641	12,454	5,730		
		(－)	(－)	(－)	(－)		
●スポーツ関係宿泊数（人）	目標	－	16,000	17,000	18,000	20,000	22,000
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	－	20,302	14,502	10,233		
		(－)	(－)	(－)	(－)		
●ＨＰ閲覧数（回）	目標	－	－	－			
		(－)	(－)	(－)	(　)	(　)	(　)
	実績	329,057	301,418	242,846	199,877		
		(－)	(－)	(－)	(－)		

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

必須 KPI と同じ。

【設定にあたっての考え方】

●再訪意向

リピーター率の関連項目として、管理を行う。リピーター率は新規開拓を行えば自ずと減少してしまう為、目標値として扱いが難しいが、再訪意向は高める方向で目標管理が容易となる。

●観光資源認知度（市民）

市民の観光に対する認知度を把握し、今後の情報発信方策等に役立てることを目的とする。

●教育旅行者数

教育旅行の推進により、閑散期の宿泊に繋げる。

●スポーツ関係宿泊数

スポーツツーリズムの推進により、閑散期の宿泊に繋げる。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2021（Ｒ３）年度	291,814,798（円）	・会費 4,345,000 円 ・受託金 54,126,440 円 ・補助金 191,404,000 円 ・負担金 7,370,102 円 ・営業収益 31,644,499 円 ・雑収収益 2,924,757 円
2022（Ｒ４）年度	213,041,704（円）	・会費 4,150,000 円 ・受託金 43,424,200 円 ・補助金 106,374,210 円 ・負担金 0 円 ・営業収益 57,882,993 円 ・雑収収益 1,255,301 円
2023（Ｒ５）年度	157,655,437（円）	・会費 4,113,000 円 ・受託金 41,726,132 円 ・補助金 39,206,000 円 ・負担金 0 円 ・営業収益 71,262,422 円 ・雑収収益 1,347,883 円
2024（Ｒ６）年度	188,093,373（円）	・会費 4,217,000 円 ・受託金 42,108,850 円 ・補助金 53,999,555 円 ・負担金 0 円 ・営業収益 85,699,457 円 ・雑収収益 2,068,511 円

様式１

2025（Ｒ７） 年度	162,278,000（円）	・会費　4,133,000　円 ・受託金　52,811,000　円 ・補助金　40,469,000　円 ・負担金　0　円 ・営業収益　64,150,000　円 ・雑収収益　715,000　円
2026（Ｒ８） 年度	162,278,000（円）	・会費　4,133,000　円 ・受託金　52,811,000　円 ・補助金　40,469,000　円 ・負担金　0　円 ・営業収益　64,150,000　円 ・雑収収益　715,000　円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2021（Ｒ３） 年度	280,393,632（円）	【受託事業】　190,902,568　円 【観光誘客宣伝事業】　2,913,415　円 【観光振興事業】　1,475,645　円 【観光行事支援事業】　81,128　円 【施設管理支出】　19,471,821　円 【営業費支出】　31,899,524　円 【一般管理費】　33,649,531　円
2022（Ｒ４） 年度	212,592,054（円）	【受託事業】　83,752,342　円 【観光誘客宣伝事業】　6,788,829　円 【観光振興事業】　2,627,185　円 【観光行事支援事業】　583,922　円 【施設管理支出】　27,009,342　円 【営業費支出】　57,977,808　円 【一般管理費】　33,852,626　円
2023（Ｒ５） 年度	151,253,366（円）	【受託事業】　16,784,380　円 【観光誘客宣伝事業】　8,244,428　円 【観光振興事業】　2,255,797　円 【観光行事支援事業】　391,572　円 【施設管理支出】　22,220,281　円 【営業費支出】　67,593,414　円 【一般管理費】　33,763,494　円
2024（Ｒ６） 年度	175,717,637（円）	【受託事業】　36,228,199　円 【観光誘客宣伝事業】　7,576,897　円 【観光振興事業】　1,890,177　円 【観光行事支援事業】　381,808　円 【観光情報等収集宣伝業務】　52,976　円 【施設管理支出】　43,318,829　円 【営業費支出】　54,627,449　円 【一般管理費】　31,641,302　円
2025（Ｒ７） 年度	162,278,000（円）	【受託事業】　29,953,000　円 【観光誘客宣伝事業】　8,015,000　円 【観光振興事業】　2,768,000　円 【観光行事支援事業】　385,000　円 【観光情報等収集宣伝業務】　91,000　円

		【施設管理支出】 22,858,000 円 【営業費支出】 64,150,000 円 【一般管理費】 34,058,000 円
2026（Ｒ８） 年度	162,278,000（円）	【受託事業】 29,953,000 円 【観光誘客宣伝事業】 8,015,000 円 【観光振興事業】 2,768,000 円 【観光行事支援事業】 385,000 円 【観光情報等収集宣伝業務】 91,000 円 【施設管理支出】 22,858,000 円 【営業費支出】 64,150,000 円 【一般管理費】 34,058,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載

・「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業の伴走支援を受けながら、来訪滞在価値を創造する各種事業を造成促進する。
・富裕層呼び込みをきっかけに、地域の高付加価値化と物産の世界ファンづくりを実現し、観光だけでなく域内産業の生産額を上げ、持続可能な経済・社会を目指す。
・八幡平山頂レストハウスの営業利益、会費の自主財源を確保し安定的な経営を着実に進める。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

八幡平市は、株式会社八幡平ＤＭＯの事業を引継ぐ組織として、一般社団法人八幡平市観光協会を当該市における地域ＤＭＯとして登録したいので、一般社団法人八幡平市観光協会とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

重複なし

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	中軽米昭彦
担当部署名（役職）	一般社団法人八幡平市観光協会事務局長
郵便番号	028-7303
所在地	岩手県八幡平市柏台１丁目２－28
電話番号（直通）	0195-78-3500
ＦＡＸ番号	0195-78-3838
Ｅ－ｍａｉｌ	akihiko@hachimantai.or.jp

様式１

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	岩手県八幡平市
担当者氏名	伊藤孝治
担当部署名（役職）	産業建設部商工観光課課長補佐兼観光振興係長
郵便番号	028-7397
所在地	岩手県八幡平市野駄第 21 地割 170 番地
電話番号（直通）	0195-74-2387
ＦＡＸ番号	0195-74-2102
Ｅ－ｍａｉｌ	syokanka@hachimantai.lg.jp

【登録DMO】一般社団法人八幡平市観光協会

様式2

記入日： 令和7年9月26日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
岩手県　八幡平市
【設立時期】 平成18年４月１日
【設立経緯】 区域の観光協会がDMOに移行
区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】 田村正彦
【マーケティング責任者（CMO）】 髙橋　美里
【財務責任者（CFO）】 中軽米　昭彦
【職員数】 7人（常勤7人（正職員7人・出向等0人）、非常勤0人）
【主な収入】
収益事業　88百万円、委託事業　42百万円、補助金　54百万円
その他　4百万円　（6年度決算）
【総支出】
事業費　36百万円、施設管理費　43百万円、営業費支出　55百万円
一般管理費　32百万円　（6年度決算）
【連携する主な事業者】
八幡平市商工会、八幡平市ホテル協議会、八幡平市産業振興（株）、（株）八幡平温泉開発、大黒森管理協同組合、岩手県北自動車（株）、（株）みちのりトラベル東北、IGRいわて銀河鉄道（株）、JR東日本びゅうツーリズム＆セールス株式会社、クラブツーリズム（株）、株式会社八幡平DMC

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2021（R3）年	2022（R4）年	2023（R5）年	2024（R6）年	2025（R7）年	2026（R8）年
旅行消費額（百万円）	目標	3,900 (–)	9,800 (800)	10,000 (3,000)	10,500 (5,600)	10,500 (7,800)	10,600 (9,700)
	実績	(–)	8,010 (460)	9,800 (2,900)	12,400 (5,800)	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	568 (–)	400 (20)	450 (70)	520 (130)	560 (180)	600 (220)
	実績	340 (0.1)	375 (12)	365 (58)	353 (82)	—	—
来訪者満足度（7点満点中）	目標	6.48 (–)	6.24 (–)	6.25 (6.15)	6.26 (6.2)	6.28 (6.4)	6.3 (6.6)
	実績	– (–)	6.11 (5.88)	6.13 (6.05)	6.04 (6.14)	—	—
リピーター率（%）	目標	83.0 (–)	83.0 (–)	82.0 (55.0)	81.0 (57.0)	80.0 (58.0)	80.0 (60.0)
	実績	– (–)	78.2 (36)	66.3 (25)	68.4 (18.2)	—	—

戦略

【主なターゲット】
①国内アクティブシニア層
②国内若年アウトドア層
③海外富裕層中心
④国内企業、学校
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
四季の魅力を活かした体験の提供、アクティビティ、文化体験を組み合わせた商品造成、雪遊びの充実、ハロウスクールとの相乗効果、上質なコンテンツの開発、学びの場としての提供、
【観光地域づくりのコンセプト】
自然を未来につなぐまちNatural Resort 八幡平

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・各種誘客イベントの運営
・環境省、観光庁事業による新たなコンテンツ造成
【受入環境整備】
・観光案内、宿泊施設案内の実施
・着地型滞在商品の造成
・教育旅行商品の造成
・自然散策バスの運行
・自然散策ガイドの養成
・観光施設の運営管理
・観光案内板等の維持管理

【情報発信・プロモーション】
・観光印刷物の再版
・電子媒体、紙媒体等を利用した広告宣伝
・ホームページの運用、情報発信
・外国人観光客のプロモーション、商談会
・テレビ、雑誌を活用した情報発信
・観光キャンペーンの推進
・十和田八幡平国立公園の誘客対策
・海外旅行博への出展
・海外ターゲット国へのweb等を活用した情報発信
・旅行サービス案内・ツアー紹介

スライド 1

髙八3

使用している画像は八幡平市観光協会が版権を持っているものです。

髙橋美里 八幡平市観光協会, 2025/09/26